

子どもたちを豊かに支える相談支援ファイル

## サポートファイル



# 「かけはし」



乳幼児から成人に至るまで、専門機関の連携による  
一貫した支援の実現を目指します！

# 保護者の皆様へ

(サポートファイル「かけはし」について)

## 1 ファイルについて

本ファイルは、お子様の成長に従って保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校、そして就労にいたる各段階において記入し、お子様への指導・支援を円滑に行い、また移行、継続していくことを目的とします。

作成に当たっては、教育、医療、福祉、保健、労働等の各関係諸機関の担当者が、会議を開き、共通理解のもとに作成しています。

このファイルの作成は、お子様の「支援を要する内容」や「継続的支援によって変容した内容」、また、どのような機関と連携を図り、どのような支援者と関わってきたか等、後々の支援者にその情報を引き継ぐこととなり、一貫した指導・支援を実現するためにとても有効です。

## 2 ファイルの記入について

お子様の発育過程で、何らかの気づきにより、学校園(所)や病院、福祉機関等に相談された結果、支援を受けることとなった段階から記入します。ファイルの各項目は、保護者の方が書く欄と、各支援者が支援内容やその評価を書く欄からなり、それぞれの支援者が保護者の方と相談しながら記入していくこととなっています。

教育、医療、福祉等の各支援機関が情報を共有し、有効で効果的な支援ができるよう、お子様の成長に即して記入していきます。

## 3 ファイルの管理について

ファイルは、保護者の方で管理をお願いします。個人情報に記載されていくこととなりますから、紛失しないように大切に管理してください。

記入の際は、ファイルを保護者が持参し、支援者とともに相談しながら定期的に記入していくこととなります。

お子様を支援する際に、各支援機関が共通して認識しておくことで、その後の支援・指導に有効となる内容をしっかり考えて記入します。ファイル自体の管理も大切ですが、記載内容の管理もとても大切です。

## 4 守秘義務について

本ファイルを記入する者、もしくは記載内容を参考として支援をする者が、本ファイルに記載されている内容やお子様の支援状況、さらには家庭的、個人的諸事情等においてその情報を公開することはありません。本内容は、あくまでも継続的・包括的な指導・支援をするために活用するもので、それ以外の目的で使用するものではありません。

# ファイル I (基礎情報)

初記入年月日 (令和 年 月 日)

ふりがな 氏名			性別	男・女	生年 月日	年 月 日	
ふりがな 保護者 氏名			住所	〒			
			TEL	TEL			
家 族 構 成	続柄	氏 名	生 年	続柄	氏 名	生 年	
備 考							

相談の きっかけ	相談者 ( ) 記載者 ( )			
幼 児 ・ 児 童 ・ 生 徒 の 各 成 長 段 階 に お け る 様 態				記入者
各教育段階	よ い 点 (得意なこと・好きなこと)	気になる点 (苦手なこと)	配 慮 点	
3歳児 (3歳時に記入)				
就 学 前 (6歳時に記入)				
小学校(前) (小3修了時に記入)				
小学校(後) (小6卒業時に記入)				
中 学 校 (中3卒業時に記入)				
高 等 学 校 (卒業時に記入)				
大 学 専 門 学 校 そ の 他				

訓練歴 相談歴 健診歴 利用機関等	年月日	支援機関名	支援者名	様態像 (障害名・病名) 年月日・病院名・医師名		
				医療歴	年月日	受診医療機関名

検査結果等	年月日	支援機関名	支援者名	手帳等	名称	種別・級	年月日	備考

各種福祉サービス受給状況

教育諸機関在籍歴			
期間	校園(所)名	期間	校園(所)名

## ファイルⅡ (長期展望と支援)

氏名 ( )

(No. )

本人・保護者	支援の方針・内容・評価等		
願い・目標 (年月日)	家庭・学校等	教育・福祉・医療 保健・労働等	機関・担当者名 (年月日)

# 子どもの出生・発達記録

記入者（ ） 記入日（令和 年 月 日）  
該当項目に○印または必要事項を記入しましょう。

## □妊娠中の状態

- 父母の健康状態 母親：[ 健康 よくない（病名： ）]  
父親：[ 健康 よくない（病名： ）]
- 次のような状態がありましたか [ 妊娠中毒症 異常出血 流産しかけた その他 ]
- 薬を飲んでいましたか [ 飲んでいない 飲んでいた（難 ）]
- たばこを吸っていましたか [ 吸っていない 吸っていた（日 本）]
- お酒を飲んでいましたか [ 飲んでいない 飲んでいた（日 本）]
- その他、医師や助産師等から何か指導を受けたことがありますか。  
[ ]

## □出産時の状態

- 出生時の父母年齢 [ 父親（ ）歳 母親（ ）歳 ]
- 妊娠期間 （ ）週
- 分娩状態 [ 特に問題なし 帝王切開 微弱陣痛 鉗子分娩 吸引分娩  
早期破水 無痛分娩 仮死状態 異常体位 その他（ ）]
- 分娩所要時間等 [( ) 時間 ]

## □新生児の状態

身長	c m	胸 囲	c m	胎 数	単・多( 胎)
体 重	g	頭 囲	c m	保育器	無・有( 日)

- 健康状態（哺乳力、黄疸等）
- 身体状態（身体機能等）
- その他

□主な発達過程		わかる範囲で記入しましょう。	※「未」...未獲得のこと
○ 首がすわる	( )歳( )月・未	○ 指さしをする	( )歳( )月・未
○ あやすと笑う	( )歳( )月・未	○ バイバイと手を振る	( )歳( )月・未
○ 寝返りをうつ	( )歳( )月・未	○ 一人で走る	( )歳( )月・未
○ お座りをする	( )歳( )月・未	○ 「パパ・ママ」など意味のあることばを話す	( )歳( )月・未
○ ハイハイをする	( )歳( )月・未	○ 「わんわん来た」などの二語文を話す	( )歳( )月・未
○ 人見知りをする	( )歳( )月・未	○ ごっこ遊びをする	( )歳( )月・未
○ おしゃべりをするように声を出す	( )歳( )月・未	○ マル印をまねて書く	( )歳( )月・未
○ 呼ぶと振り向く	( )歳( )月・未	○ おむつがはずれる	( )歳( )月・未
○ 一人で立つ	( )歳( )月・未	○ ボタンをはめられる	( )歳( )月・未
○ 一人で歩く	( )歳( )月・未		
○ 夜泣きがひどかった		[はい( )歳頃)・いいえ]	
○ 「ママ」など一旦出ていた言葉が出なくなった		[ある( )歳頃)・ない]	
○ 言葉以外でできていたことができなくなった		[ある( )歳頃)・ない]	
<b>□乳幼児期の状態</b> 該当する項目に○印をつけましょう。 年齢的特徴が見られた場合は、その年齢も記入しましょう。			
<p>■ 歩き始めてからの様子</p> <p>( ) ( )歳頃) 落ち着かず、動き回り、目が離せなかった。</p> <p>( ) ( )歳頃) じっとして動かないことが多かった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 迷子になることが多かった。</p> <p>[その他: ]</p> <p>■ 言葉に関する問題</p> <p>( ) ( )歳頃) 言葉が出るのが遅かった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 言葉が出るのは普通だったが、その後、語い数が増えなかった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 話しかけられた言葉をそのまま返すこと(オーム返し)が多かった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 吃音が目立った。</p> <p>( ) ( )歳頃) 家庭ではよくしゃべったが、人前ではしゃべらなかった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 自分の興味のあることを一方的にしゃべっていた。</p> <p>( ) ( )歳頃) 話の内容が一貫せず何を言いたいのかよく分からないことがあった。</p> <p>( ) 拗音・長音・促音などの発音が十分に発達しなかった。</p> <p>[その他: ]</p> <p>■ 要求表現について</p> <p>( ) ( )歳頃) 何でも自分でやってしまう</p> <p>( ) ( )歳頃) 言葉で表現せず人の手を引っ張っていく。</p> <p>( ) ( )歳頃) 指さしや身振りで表現する。</p> <p>[その他: ]</p> <p>■ 特徴的行動</p> <p>( ) ( )歳頃) あやしてくれる人と視線が合わなかった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 名前を呼んでも振り向かなかった。</p> <p>( ) ( )歳頃) よく動き、着替えやおむつを替えるのが大変だった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 人との接触を嫌がり抱っこをすると体をよじるような行動をとった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 環境変化には過敏に反応した。</p> <p>( ) ( )歳頃) 周りの子どもたちと遊ぶよりは一人で遊ぶことが多かった。</p> <p>( ) ( )歳頃) 変わった遊びや癖があった。</p> <p>[その他: ]</p>			





# ファイル記入の手引き

本手引きは、保護者や記入者が、記載する内容を共通理解するためのものです。基本的には、ここに示した内容を記入してください。また、必要がある場合は、一部付加、変更することも可能です。記入例を添付していますので参考にしてください。

## ファイル（基礎情報）表

---

初記入年月日...本ファイルが一番はじめに作成記入した年月日。

氏名（ふりがな）...対象の幼児・児童・生徒・学生（以下「対象者」という。）の氏名およびふりがな。

性別...対象者の性別。

生年月日...対象者の生年月日。

保護者氏名...対象者の保護者氏名およびふりがな。

保護者の変更に対応するため、上部より詰めて記入。

住所・TEL...保護者の住所、連絡先電話番号。保護者と対象者の住所等が異なる場合は、必要に応じて両方を記載。記載スペースが足りない場合は、下欄の備考欄を活用するか、別紙に記入して添付する。

家族構成...対象者の家族構成。

続柄...兄弟姉妹については、「兄」・「弟」・「姉」・「妹」と記入する。

氏名...姓については、同一であれば省略してもよい。

生年...生年は、西暦、元号どちらでもよい。

元号で記載する場合は、アルファベットの頭文字で表記。

明治...M、大正...T、昭和...S、平成...H

~ については可能な限り保護者が記入する。

---

相談等のきっかけ...教育・福祉・保健・医療等の機関へ相談や受診をしようと思ったきっかけ（気づき等）を記入する。

例：すぐ横で、名前を呼び、声をかけても、反応しないことがよくある。  
耳が聞こえていないのではないかと思い耳鼻科を受診したが、異常なしと言われた。聴覚的認知困難があるのではないかと思い相談に来た。

相談者（ 母親 ） 記載者（ , 小児科医 ）

各成長段階における様態

対象者の各成長段階の様態について、よい点、気になる点、配慮点を記入する。

記入は、それぞれの項目の（ ）内に記載されている時期に、顕著なもの、特徴的なものを中心に記入する。配慮点については、日常生活上の注意点や交友関係、学習上の配慮等が該当する。記入は、教育機関の関係者を中心にその他関係諸機関の担当者が保護者と相談しながら記入する。大学等への進学後、記入できる支援者がいない場合は、保護者が記入する。これらの情報は、移行支援に生かされることはもちろん、対象の子どもの様態変化を端的に伝える上でも意味のあるものである。

---

---

## ファイル（基礎情報）裏

訓練歴・相談歴・健診歴・利用機関等

対象者の訓練歴、相談歴、健診歴、利用機関等を記入する。詳細内容は、「支援ファイル」に記入する。ここでは、年月日、支援機関名、支援者のみを記入する。記入しきれない場合は別紙に記入し添付する。

様態像（障害名・病名等）、年月日、病院名・医師名...様態について記入する。医療機関を受診し、診断を受けた場合はその内容を同欄に記入する。記入は、医師もしくは保護者が行う。診断名が年齢に応じて変化した場合も、同欄に記入する。

（保護者が行う場合は医師から聞き取った内容を記入する。）

医療歴...医療機関の受診・指導歴を記入。同医療機関に継続的に受診している場合は、年月日欄にその期間を記入する。詳細内容は、「支援ファイル」に記入する。ここでは、受診年月日と医療機関名のみを記入する。

検査結果等...発達検査・心理検査・適性検査等の、各種検査について、検査を受けた年月日、検査名と結果、検査者名を記入する。

手帳等...身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳等について、各手帳の名称、種別・等級、取得年月日を記入する。複数の手帳を有する場合はすべてを記入する。

各種福祉サービス受給状況

障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス（介護給付費・訓練等給付費）、さらには、各市町独自に支給される福祉サービス等を記入する。この情報は、関係諸機関が連携的に支援する上で参考となる。

主なサービス...特別障害者手当、障害児福祉手当、児童扶養手当、特別児童福祉手当行動援護、補装具の交付、日常生活用具の給付、児童デイサービス、短期入所等

教育諸機関在籍歴

教育機関の在籍歴を記入する。保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の在籍歴となる。転校歴等も記入する。この情報は、学校園間連携をする上で参考とする。

---

## ファイル（長期展望と支援）

氏名...対象者の氏名を記入する。

No. ...記入枚数に応じて順次ファイルナンバーを記入する。1・2・3.....。

本人・保護者の願い・目標

本人・保護者の様態変容に関する願いや目標を記入。この記入に基づき、家庭および各支援機関は、本人・保護者と相談の上、支援方針を決め、支援を実践していく。

支援の方針・内容・評価

家庭および各支援機関は、支援方針、具体的な支援内容を記入する。支援の状況に応じて適宜評価を行い、支援方針の改善および発展を思考し記入していく。また、支援機関、支援担当者、支援年月日も記入し、経年の支援状況の詳細が把握できるよう具体的に記入する。

記入に関しては、時系列とし、支援のない欄は空白とする。例えば、家庭・学校等の欄に記入し、その期間、それ以外の「教育、福祉、医療、保健、労働等」の支援を受けていない場合は、その欄は空白となる。

---

# ファイル（基礎情報）

記入サンプル1

初記入年月日（平成12年 9月 7日）

ふりがな氏名		性別	男	生年月日	平成 2年 6月 7日	
ふりがな保護者氏名		住所	〒	市 町 番地		
		TEL				
家族構成	続柄	氏名	生年	続柄	氏名	生年
	父		19年			
	母		19年			
	妹		20年			
備考						

相談のきっかけ	幼稚園の頃から落ち着きがなかったが、小3になっても興味関心のあることだけで頭がいっぱいになってしまい、自分をコントロールできず、対人関係もうまくいかないので医療機関に相談した。 相談者( 母親 ) 記載者( 小学校 )		
幼児・児童・生徒の各成長段階における様態			記入者
各教育段階	よい点 (得意なこと・好きなこと)	気になる点 (苦手なこと)	配慮点
3歳児 (3歳時に記入)	・人懐こく、人見知りしない。 (母より)	・よく動き落ち着かない。 (母より)	初記入時以前の段階は、保護者、教師等に聴取し、記入可能であれば分かる範囲で記入することとする。
就学前 (6歳時に記入)	・明るく元気。 ・TVゲーム好き(母より)	・順番が待てない。 ・絵本を読むのが苦手	
小学校(前) (小3修了時に記入)	・理解が速く計算が得意。 ・ポケモンが好き。(前担任)	・話し出すと止まらない。 ・ケルミスが多い。(前担任)	・聞き漏らしが多いので個別の声かけをする。
小学校(後) (小6卒業時に記入)	・好きなことは長時間集中できる。 ・パソコンが得意。	・感情的になり、友達とうまくいかず落ち込むことがある。	・得意なことを生かし自己肯定感を高める。 ・自分を客観的に振り返る訓練をする。
中学校 (中3卒業時に記入)	・部活動を通して体力、忍耐力が身につく。 ・テニス部	・携帯電話に夢中である。 ・読書はあまりしない。	・得意なことを生かし自己肯定感を高める。 ・好きなことは時間やルールを決めてする。
高等学校 (卒業時に記入)			
大学 専門学校 その他			

訓練歴 相談歴 健診歴 利用機関等	年月日	支援機関名	支援者名	様態像 (障害名・病名) 年月日・病院名・医師名		
	16.8.3	香川大学教育学部特別支援教室すばる(相談)		離席や忘れ物が多く、集中して物事に取り組むことが難しい(ADHD)(H12.8.26) 病院、 医師		
	19.11.2	発達障害者支援センターアルプスかがわ(相談)		不注意に加え、学習内容の定着が難しく、特に漢字の読み書きや作文には苦手意識を強くもっている。(ADHD、LD)(H14.9.27) 病院、 医師		
				医療歴	年月日	受診医療機関名
				12.8.26	病院・ 医師 (リタリン服用 朝1/2 )	
				13.6.9	病院・ 医師 (リタリン服用 朝1/2 昼1/2 )	
				15.4.8	病院・ 医師 (リタリン服用 朝1 昼1 )	
				19.9.7	病院・ 医師 (コンサータ服用 朝1 )	

検査結果等	年月日	支援機関名	支援者名	手帳等	名称	種別・級	年月日	備考
	12.8.1	WISC- (FIQ100)						
	15.5.1	WISC- (FIQ101)						
各種福祉サービス受給状況								

教育諸機関在籍歴			
期間	校園(所)名	期間	校園(所)名
H6.4~H9.3	幼稚園	H18.4~	香川県立 高等学校(全日制)
H9.4~H15.3	町立 小学校		
H15.4~H18.3	町立 中学校		

## ファイル （長期展望と支援） 記入サンプル1

氏名 ( )

(No. 1 )

本人・保護者	支援の方針・内容・評価等		
願 い ・ 目 標 (年 月 日 )	家 庭 ・ 学 校 等	教 育 ・ 福 祉 ・ 医 療 保 健 ・ 労 働 等	機 関 ・ 担 当 者 名 (年 月 日 )
<p>(H.12.9.7) 本人：友達と一緒に楽しみたい。 保護者：落ち着いて勉強したり、話を聞いたりすることができるようになって欲しい。</p> <p>(H.15.5.7) 本人：部活動を頑張りたい。 保護者：苦手なことにも少しずつ挑戦して、高校に進学して欲しい。</p> <p>(H.18.5.20) 本人：好きなパソコンを将来の仕事につなげられるようにしたい。 保護者：将来の就労につながるよう進路を考えたり、学校生活を送ったりして欲しい。</p>	<p>【支援方針】 家庭、学校：うまくできたことや頑張れていることを具体的に伝えていく。 学校：友達とのトラブルについては、シミュレーションや振り返りの機会をもつ。</p> <p>【評価：H.15.3】 「こうすればよかった」とカバーする方法を自分なりに見つけることができるようになってきた。 ( 小学校, )</p> <p>【支援方針】 家庭、学校：うまくできたことや頑張れていることを具体的に伝えていく。 学校：学校生活、部活動を通して体力、ルール、人との接し方を身に付けていく。</p> <p>【評価：H18.3】 学校生活、特に部活動を通じて体力や忍耐力が身につき自信につながった。 ( 中学校, )</p>	<p>医療：薬の量の調整をしたいので学校での様子を知らせて欲しい。</p> <p>医療：成長に合わせて薬の量を見直す予定。思春期を迎えるので得意なこと好きなことを生かして自己肯定感を大切にしたい。</p>	<p>(H.12.9.26) 病院 医師</p> <p>(H.15.3.5) 病院 医師</p>

# ファイル（基礎情報）

記入サンプル2

初記入年月日（平成3年11月1日）

ふりがな氏名		性別	男	生年月日	平成元年5月1日	
ふりがな保護者氏名		住所	〒	市	町	番地
		TEL				
家族構成	続柄	氏名	生年	続柄	氏名	生年
	父	—————	S年	祖母		S年
	母		S年			
	弟		H年			
	祖父		S年			
	備考：父（平成18年8月離別）					

相談のきっかけ	・2歳を過ぎたあたりから、言葉が十分でないことと特定のものへのこだわりがあることから、心配していた。3歳児健診のとき市の保健師に相談したところ、園の療育センターを紹介された。 相談者（母親） 記載者（園療育センター）		
幼児・児童・生徒の各成長段階における様態			記入者
各教育段階	よい点 （得意なこと・好きなこと）	気になる点 （苦手なこと）	配慮点
3歳児 （3歳時に記入）	・ミニカーがあれば、落ち着いて過ごせる。	・大勢の中でいるときに指先で耳をふさいで動けなくなるのと。	・大勢の中で不安定なときは、イヤーマフをする。
就学前 （6歳時に記入）	・車の名前をたくさん言える。	・言葉で十分説明できないときに、自分の手をかむこと。	・落ち着くためのスペースを確保しておく。
小学校(前) （小3修了時に記入）	・広告紙を使ってゴミ箱を丁寧に折ることができる。 ・自転車に乗れる。	・自分の思いが通らないときに、物を投げたりすること。	・投げて危険なものは机の近くに置かないようにする。
小学校(後) （小6卒業時に記入）	・手先を使った細かい作業課題に根気よく取り組むことができる。	・自転車に乗って、自由に出かけてしまうこと。	・自転車の鍵の管理をする。（許可制）
中学校 （中3卒業時に記入）	・車のプラモデルを一人で作るができる。	・一度に二つ以上の指示を理解することが苦手である。	・1回の指示は一つずつ、必要であれば写真なども用いる。
高等部 <del>高等学校</del> （卒業時に記入）	・糸鋸盤を使って組み木の細工を切ることができる。	・長時間の立ち仕事が苦手である。	・手先の細かさを生かせるために、座って取り組める仕事を目指す。
大学 専門学校 その他			

訓練歴 相談歴 健診歴 利用機関等	年月日	支援機関名	支援者名	様態像 (障害名・病名) 年月日・病院名・医師名		
	H2.8.1	・1歳半健診		自閉症 (ADHD) (H5.12.2) 病院、 医師		
	H3.7.3	・市保健センター (発達相談)				
	H3.7.3	・3歳児健診				
	H3.11.1	・園療育センター (言語訓練と感覚訓練)				
	H6.1.5	・児童相談所 (発達相談)		医療歴	年月日	受診医療機関名
	H9.6.9	・リハビリセンター (言語訓練と作業訓練)			H5.12.2	病院・ 医師
中略						
H20.4.1	・香川障害者職業センター (ジョブコーチ支援)					

検査結果等	年月日	支援機関名	支援者名	手帳等	名称	種別・級	年月日	備考
	H6.3.1	田中ビネー (IQ65)	(知更相)		療育手帳	B	H6.3.20	
	中略					中略		
	H16.7.30	WISC- (FIQ50)	(中担任) (障害福祉相談所)		療育手帳		H18.3.18	
H18.3.1	田中ビネー (IQ60)							

各種福祉サービス受給状況

- ・特別児童手当受給
- ・地域生活支援事業利用者証

教育諸機関在籍歴

期間	校園(所)名	期間	校園(所)名
H5.4~H6.3	保育所	H14.4~H17.3	市立 中学校(知的障害児学級)
H6.4~H8.3	市立 幼稚園	H17.4~H20.3	香川県立 養護学校
H8.4~H14.3	市立 小学校(知的障害児学級)		

# ファイル (長期展望と支援)

記入サンプル2

氏名( )

(No. )

本人・保護者	支援の方針・内容・評価等		
願い・目標 (年月日)	家庭・学校等	教育・福祉・医療 保健・労働等	機関・担当者名 (年月日)
・本人に合ったコミュニケーション方法を身につけ、思いを伝えられようになる。 (H3.11.1)	【方針】・父親と自閉症親の会主催のコミュニケーション方法の勉強会に参加する。(家庭)	【方針】・言語療法により言語の発達を促したり、感覚訓練により体幹をしっかり保てるようにさせる。	・園療育センター 言語聴覚士： (H3.11～)
中略			
〔特別支援学校高等部3年頃〕 ・卒業後は一般企業で就職したい。 (H19.5.10)	【方針】自閉症のこだわりと手先の巧緻性を生かせる現場実習先をハローワークと連携して開拓する。(学校)  ・家庭でも、実習可能な企業について情報収集し、学校に連絡する。(家庭)  【評価と方針】 株式会社へ3週間の現場実習が決定した。実習先での就職を目指して家庭と学校が協力して取り組む。	【方針】学校の要請により、本人の適正に応じた企業の情報提供及び求人紹介を行う。  【方針】実習期間中、学校職員と実習先に同行し、今後の方向性について検討する。	・ハローワーク 学卒担当：  ・ハローワーク 学卒担当：
中略			
〔特別支援学校高等部卒業前〕 ・株式会社での就職を継続したい。 (H20.2.1)	【方針】 ・卒業後最低3年間は、定期的に職場を訪問し状況を伺う。(学校) ・毎日休まず通勤できるように、生活リズムと食生活に気を配る。(家庭) ・職場での安定を図るために、障害者職業センターのジョブコーチを活用する。(学校・家庭) ・生活面での支援が必要になった場合も考え、就業・生活支援センターに登録する。(家庭)	【方針】 ・連絡ノートを作成し、家庭と会社間の連絡を密にする。(株式会社・家庭)  ・ジョブコーチ支援を行う。(障害者職業センター)  ・定期的に、職場を訪問し、ジョブコーチと連携しながら状況を把握する。	・株式会社 さん  ・職業センター さん  ・ハローワーク 特別援助部門： さん



